

# 2018 年度活動報告 CJP 授業：日本文化 A

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

## 1. クラス概要

本授業は、レベル4以上の学習者を対象とした選択科目である。前半は、日本文化に関する講義を理解した上で、各自が具体的な内容について調べ、発表することにより、総合的な日本語力を高め、知識を深めることを目標とした。また、京都フィールドトリップに出かけることにより、座学による知識だけではなく、体験を伴った深い学びに繋げることを重視した。後半は、ボランティアの正規学部生とのディスカッションを通して、文化について考える活動を行った。また、自らの話し合いを客観的に振り返る機会を持つことにより、より良い形で話し合いに参加できるようになることを目指した。

## 2. 授業内容

授業全体の大まかな構成は、①講義「日本人と四季」 ②京都フィールドトリップ ③ディスカッションである。まず、映画を視聴し、講義への導入とした。講義の中で、「日本人と四季（食文化）」の一環として和菓子について触れ、フィールドトリップで体験する和菓子作りへと繋げた。フィールドトリップ後には、全体での振り返りを行った。

後半は、正規学部生をクラスに招き、異なる文化背景を持つ者同士でグループディスカッションを行った。ディスカッションの大まかな流れは、1回目の授業で、まずトピックとなる読み物を読み、内容を理解した上で、2～3名のグループでディスカッションを行う。各グループでディスカッションを行ったあと、意見を全体で共有する。ディスカッションの様子を録画しておき、その映像を見ながら、宿題として、まず個人の振り返り作業を行う。2回目の授業では、全グループメンバーが個人の振り返り結果を持ち寄り、グループ全体で振り返り作業を行う。話し合いの良かった点、悪かった点などを共有し、今後どのように改善していくかを話し合うというものである。話し合いの振り返りには、観察支援ツール「Fish Watchr」を用いた。

## 3. 成果と今後の課題

秋学期の学期末アンケートでは、「この授業に満足している」という項目に対し、受講者8名中7名が「そう思う」、1名が「まあまあそう思う」と回答しており、全体の満足度は高かったと言える。今回、後半の話し合いの振り返りに「Fish Watchr」というソフトを用いたことで、授業内外でテクニカルな問題の対応に追われた感があった。今回の経験を活かし、よりスムーズな授業運営に努めることが今後の改善点である。